

研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
A-152	12-144	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)		
Risk and protective factors associated with symptoms of post-traumatic stress, depression, and alcohol misuse in OEF/OIF veterans. OEF/OIF 退役軍人における心的外傷性ストレス、うつ、アルコール乱用の兆候と関連するリスク・予防要因		
執筆者		
James LM, Van Kampen E, Miller RD, Engdahl BE		
掲載誌		
Mil Med. 2013 Feb;178(2):159-65		
キーワード		
退役軍人、うつ、心的外傷性ストレス、アルコール乱用		
要 旨		
目的： イラクとアフガニスタンの紛争から帰還した軍人は、一般的にメンタルヘルスの問題を経験しており、メンタルヘルスの問題と関連するリスク・予防要因は検討中である。本研究では、神経症的傾向、配備以前の人生の出来事、戦闘経験、脅威の認識及び配備後の社会的サポートによる配備後 6 か月、12 か月、24 か月のメンタルヘルスへの影響を検討した。		
方法： 271 人の退役軍人が自己申告により評価された。神経症的傾向から外傷性ストレスとうつ傾向を予測するため、階層的回帰分析を 3 時点全てで行った。脅威の認識から心的外傷性ストレス兆候を予測する分析を時点 1 と時点 2 で、うつ兆候を予測する分析を時点 2 で行った。		
結果： 社会的サポートは、心的外傷性ストレスとうつ兆候に対する強い負の予測因子であった。アルコール乱用はどの変数においても有意に予測しなかった。		
結論： 本研究は、脅威の認識と神経症的傾向の配備後のメンタルヘルスに対する役割を明らかにし、社会的サポートは確かな予防因子であることを示した。持続的な配備後の社会的サポートの増加を目的とした試みは、退役軍人におけるメンタルヘルスの問題を防ぐかもしれない。		